

検査項目の説明

下部消化管検査	
内視鏡検査	肛門から大腸に内視鏡を挿入し、大腸の粘膜を観察して大腸ポリープや腫瘍の状態を調べます。細胞診断のためポリープや腫瘍の組織を採取する場合があります。
乳房検診	
乳房超音波	超音波により乳腺の性状や、腫瘍の有無を調べます。放射線による被ばくがないので、妊娠中、授乳中の方、豊胸手術をされている方など、どの年齢の方も安心して検査を受けられます。
マンモグラフィ	乳房専用のX線撮影のことです。乳腺(乳房内組織)を見やすくするために、乳房をできるだけ引き出して圧迫版で挟み薄く広げた状態で撮影します。触診ではわからない小さな腫瘍や微細石灰化などを描出します。早期乳がんの発見に有効な検査です。
婦人科検診	
内診	陰鏡(ちつきょう)を腔内に挿入し腔内部を観察します。また触診にて子宮の硬さ、大きさ、卵巣の腫れの有無などを確認します。
経膈超音波検査	経膈プローブ(棒状の超音波発信機器)を腔の中に挿入し、子宮や卵巣の状態を調べます。内診検査では見つかりにくい小さな所見や、病変などの大きさが詳しく比較できます。 ※検査項目に含まれていない方は オプション検査として追加できます。
子宮頸がんについて	
子宮頸がんは子宮の入り口(子宮頸部)にできる「がん」です。原因のほとんどはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染であることがわかっています。感染してもほとんどの方は免疫の力で自然消失しますが、中にはHPV感染が持続し子宮頸がんに進じます。	
細胞診	細胞診は、医師が子宮の入り口を専用のブラシやへらで細胞をこすり取ります。異常な細胞がないか顕微鏡で調べる検査です。月経(生理)中は避けて検査を受けてください。
HPV(ヒトパピローマウイルス)	細胞診検査と同時に検査を行うことができます。子宮頸部から細胞を採取し、ウイルス感染しているかどうかを調べる検査です。細胞診検査と併用することで子宮頸がんの早期発見ができます。 ※性交渉未経験者は、HPVに感染するリスクが低いので、検診を受けるメリットは 小さくなります。

■子宮頸がん検診結果(細胞診のみ)

細胞診	異常なし(NILM)	軽度病変疑い(ASC-US)	軽度病変(LSIL) 高度病変疑い(ASC-H) 高度病変(HSIL) 扁平上皮癌(SCC) 腺癌疑い(AGC) 腺癌(Adenocarcinoma) その他の異常
注意事項	異常なし	精密検査が必要です。かかりつけ医に結果をお伝えください。当院では他院へご紹介させていただきます。	

■子宮頸がん検診結果(細胞診とHPV検査併用)

細胞診	異常なし(NILM)		軽度病変疑い(ASC-US)		軽度病変(LSIL) 高度病変疑い(ASC-H) 高度病変(HSIL) 扁平上皮癌(SCC) 腺癌疑い(AGC) 腺癌(Adenocarcinoma) その他の異常	
HPV	陰性	陽性	陰性	陽性	陰性	陽性
注意事項	異常なし	1年後、必ず検査を受けて経過をみてください。		精密検査が必要です。かかりつけ医に結果をお伝えください。当院では他院へご紹介させていただきます。		